

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

東北福祉大学精神保健福祉士課程 で学んだこと

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 **千田 基嗣**

昨年3月の精神保健福祉士（MHSW）資格取得後、すぐ4月から、気仙沼市教育委員会の教育サポートセンターで、週1回非常勤のスクールソーシャルワーカー（SSW）の仕事に就いている。

4年前思い立って資格取得をめざし、東北福祉大学通信課程に入学した。

長く、臨床心理学、精神医学への関心を持ち続け、臨床心理士、あるいは、公認心理師の資格取得は念頭にあり続けた。50歳を過ぎた頃、産業カウンセラーの資格は取得し、社会保障制度、労働法制について学び直すとともに、ロジャーズ流の心理カウンセリングの実技も学ぶことができた。

当時、気仙沼市本吉図書館長となっており、続いて司書資格をと、大学の通信課程に入学し、学費も払い込んだが、地区館の館長の立場で震災後の気仙沼図書館再建に、傍流から支援のように取り組む中で、まさしくそのタイミングで本館の館長に異動となり、全くの当事者の立場となったことから、遠隔地のスクーリングを伴う修学は無理、と諦めてしまった。もし司書資格を有することとなったら、どんな道筋を歩むことになっただろうか。

60歳で退職後、仮設住宅入居者の生活再建を支援する相談員、その後、児童養護施設付設の児童家庭支援センター相談員として仕事する中で、現役当時の福祉事務所生活保護ケースワーカーの経験（社会福祉主事任用経験者である）や産業カウンセラーの実技・学科の学びと、精神分析、臨床心理学、精神医学、精神保健福祉関係、哲学、経済学、社会思想の読書から得た知識、それらを基盤として、自分としてはきちんと職務をこなしているつもりではあったが、外形的には無資格者でしかないという限界を感じ

じるところがあった。65歳を過ぎて、いまさら資格など、といえばそうであるが。

心理系の資格では、臨床心理士、公認心理師となるが、直接大学院というのは困難で、改めて学部から心理学を学び直す必要がありそうであった(大学の専攻はいちおう、哲学思想であるが、4年間一般教養で卒業したと常々語っている)。つまり最短でも4年かかる。MHSWなら、学部のみで受験資格が得られ、専門学校では1年半程度の修学で済みそうなところもあった。また、県内で「こころのケアセンター」などで、この資格で活躍なさっている方が多数いらっしゃることも知った。

しかし、それだけではなく、精神科医の斎藤環氏や高木俊介氏、森川すいめい氏らが紹介している「オープンダイアログ」や向谷地生良氏の「へてるの家」の当事者研究、また、臨床心理士の東畑開人氏の「ふつうの相談」などの論考をみると、心理的な、人間のこころの内面のみに関わる支援では不十分であると思えてきた。家族関係を含む社会関係の調整が不可欠であり、心理カウンセラーは同時にソーシャルワーカーであるべきであって、つまりはメンタルヘルスソーシャルワーカー(MHSW)こそが私の目指すべき資格と思えてきたのである。

そもそも私の関心領域は、哲学、精神分析、文化人類学、社会思想、地方自治論、そして実は文学であって、福祉学はそのなかには入っていなかった。しかし、もちろん、地方自治を論じるにあたって、福祉は重要な分野であるし、私の仕事として、福祉事務所のケースワーカー、また、児童福祉の相談員と、まさしくソーシャルワーカーを経験してきたわけでもある。そういうなかで、向谷地氏の著書や、たとえば慶応大学の井出栄策教授らの『ソーシャルワーカー』(ちくま新書2019)などの書物に出会い、むしろ、ソーシャルワーカーが私の天職とすら思い至ることとなったのである。

ということで、MHSWの資格取得こそが目指すべき道となってしまう

た。

福祉大での学びは、精神保健福祉にかかわるさまざまな科目が幅広くかつ重なるようにカリキュラムが組まれている。私の人生の中でも、はじめて体系的に専門分野を学べる機会となった。これまでの知識経験には、ずいぶんと穴があった、そこをつないでいくことができたといえいいだろうか。どの教科も、刺激的で面白かった。

たとえば、資格要件にはない「スクールカウンセラー」の科目は、現在のSSWの仕事にほぼ丸ごと役立っている。教科書によれば、そもそも、アメリカのスクールカウンセラーは、内面の心理のみの専門家ではなく、学校における、家族を含む社会関係の調整の責任者なのであった。

東北福祉大の課程は、実習が、入学後1年間の履修の後、かつ障害者福祉施設と精神科医療機関の2種の実習を別年次という条件があり、結局3年必要ということで、これは入学時点で分っていたことだが、宮城県内で仕事する上では、やはり福祉大卒業がゆくゆく役に立つと思えたというだけでなく、3年間で、心理系も含め、スクーリングも可能な限り登録し履修することができた。障害者福祉施設一就労支援B型事業所における、また、精神科病院における実習、どちらも人生の中でも貴重な体験であり、多くの学びがあった。すべての科目は、SSWとして、MHSWとして役に立つことばかりであった。

では、現在の仕事にどう具体的に、というところは、また別の機会を与えていただければ幸いである。

最後に、現役の通信課程学生の皆さんに、アドバイスということだが、私の例は、あまり参考にはならないかもしれない。私には、安易に自分のことばで述べるよりも、引用個所を選び連ねることによって、考えを明示できればそれ以上のことはないという、一見奇妙な考え方があって（だれ

かの本に書いてあったことではある)、科目のレポート作成にあたって、選定されたテキストから適切に引用すれば最善のはずと、自分の言葉はあまり差し挟まないようにしていたが、先生方からは、引用が多すぎる、もっと自分の考えを述べよと、繰り返し指摘を受け続けた。もちろん、引用なしで自分の考えを述べるのでは勉強にはならないわけである。適切に引用して、そのうえで自分で考えて自分なりの言葉を紡ぎ出す、というプロセスが必要ということなのだろう。書を読んで、而して考える、ということである。

どのテキストも興味深く、レポート作成も楽しんだ。スクーリングは、特に演習とか、ロールプレイとかはもちろん、講義形式でも積極的に質問した。

通信課程の3年間は、すべて楽しく充実した時間だった。考えてみると私は昔から勉強は好きだったわけで、また、定年退職後の時間に余裕のある状態ではあり、そういう意味で、あまり参考にはならないかもしれないが、志をもって通信課程に入学した皆さんは、多かれ少なかれ、専門分野に興味を持たれているはずである。限られた期間を楽しんで、資格取得に結びつけていただければ何よりのことである。

